

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 3 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401442		
法人名	株式会社 道央ケアセンター		
事業所名	グループホーム つつじⅢ		
所在地	札幌市手稲区金山1条2丁目1-39 (電話) 011-686-7700		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月12日	評価確定日	平成22年4月6日

【情報提供票より】 (平成22年2月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	17人, 非常勤 1人, 常勤換算 11.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000~35,000円	その他の経費(月額)	光熱費他 15,000円 暖房費(11~3月) 8,000円
敷金	有( ) 円 ) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 ) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (2月 23日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	8 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	65 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医) 勉仁会中垣病院、医) ひまわり会札幌病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の幹線道路の近くで、隣に協力医療機関がある2ユニットのグループホームです。建物は3階建てで1階がデイサービス、2~3階がグループホームとなっています。建物内はゆったりとした造りで、居間や食堂が中庭に面しており、窓も多く快適です。また、トイレや風呂も広めに作られ、エレベーターが設置されるなど設備が充実しています。職員は利用者を尊重し、やさしく礼儀正しく接しており、2ユニットがお互いに交流し一体的な関係を保っています。利用者の楽しみごととも支援しています。内部研修や同業者との交流も活発であり、サービスの向上に活かされています。災害対策の面でも、日ごろから避難訓練や救急救命訓練の受講を徹底し万全の準備をしています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価については、改善計画シートを作成し、前回の取り組み項目である「地域密着型サービスとしての理念」について具体的に改善が実現されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は評価表を全職員に配布して項目ごとに分担して作成し、管理者が取りまとめています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヵ月に1回のペースで開催され、地域包括支援センター職員、民生児童委員、利用者、家族などの参加を得ています。近況報告の他、外部評価を2回に分けて説明したり、災害対策などをテーマに話し合い、意見交換されています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時や運営推進会議の家族参加時に意見をいただいたり、面会簿の下に意見欄を設けて記入を促しています。重要事項説明書にホームおよび区の介護保険課、国民健康保険団体連合会などの苦情・相談窓口を明記しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の病院の盆踊りに参加したり、ホームの夏祭りに近隣住民の方々の参加を得ています。区のふれあいイベントの参加者がホームに見学に来てくれたり、お茶や音楽のボランティアの先生や小学生がホームを訪れてきています。また、1階のデイサービス利用者とも交流しています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で話し合いホーム独自の理念をつくっています。前回の外部評価の結果を受けて、理念の中に「地域との結びつきを重視した家庭的な環境の下で」という文言を入れ、地域密着型サービスとしての理念を確立しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やエレベータ内、多目的室やスタッフの休憩室などに掲示しており、毎月の内部研修でも2ヵ月ごとに理念を読み合わせて確認しています。職員は理念を意識して介護業務にあたっています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の病院の盆踊りに参加したり、ホームの夏祭りに近隣住民の方々の参加を得ています。区のふれあいイベントの参加者がホームに見学に来てくれたり、お茶や音楽のボランティアの先生や小学生がホームを訪れてくれています。また、1階のデイサービス利用者とも交流しています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は評価表を全職員に配布して項目ごとに分担して作成し、管理者が取りまとめています。外部評価については、改善計画シートを作成し、前回の取り組み項目である「地域密着型サービスとしての理念」について具体的に改善が実現されています。		

札幌市手稲区 グループホーム つつじⅢ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回のペースで開催され、地域包括支援センター職員、民生児童委員、利用者、家族などの参加を得ています。近況報告の他、外部評価を2回に分けて説明したり、災害対策などをテーマに話し合い、意見交換されています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区が開催する管理者連絡協議会に事業所の管理者が交代で参加し、市や区の職員といつでも相談できる関係を築いています。報告書の作成方法など不明な点は電話で相談しています。また、区のふれあいイベントに協力し、区民の見学者を受け入れています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪された際や電話にて利用者の暮らしぶりを報告しています。また、年4回、季節ごとにホーム便りを作成して送付しており、職員の異動も知らせています。利用者の近況報告と預かり金明細は2ヵ月に1度、家族に送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議の参加時に意見をいただいたり、面会簿の下に意見欄を設けて記入を促しています。重要事項説明書にホームおよび区の介護保険課、国民健康保険団体連合会などの苦情・相談窓口を明記しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列のグループホームとの異動はほとんどなく、職員の結婚退職などでユニット間で異動があっても、日ごろから馴染みの関係にあるため問題は発生しません。おめでたい理由での退職は利用者に伝えていますが、ダメージが見られたケースはなく、影響はありません。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の内部研修をホーム長や管理者が中心となって企画・運営していますが、全員が受講できるよう、2～3回同じ研修を行なっています。外部研修にも職員が交代で参加し、参加後伝達講習をしています。職員の希望を聞いて資格試験の学習支援も行なっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は区のグループホーム管理者連絡協議会に参加し、同業者と交流する機会を持っています。また法人が函館や旭川など他の地域のグループホーム見学会をセッティングしており、管理者や職員が参加しています。また、系列グループホームとも職員同士の交流があります。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人にホームを納得いくまで見学してもらい、一緒にお茶を飲んでいただくなどしています。また、家族にもホームの説明を十分に行なっています。利用開始後も利用者が早く馴染めるよう、他の利用者との共通の話題づくりをしたり、関係を築けるようにしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、料理の味付けや紐の縛り方などを教えてもらい、学んでいます。入浴介助の際に職員にねぎらいの言葉をかけていただき、食事介助の際に感謝の言葉を掛けていただくなど、お互いに支えあう関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に収集した家族や本人へのヒアリングをもとにフェイスシートやアセスメントシートを作成し、思いや意向を把握しています。把握した利用者の思いや意向はモニタリングやミーティングの際に職員間で共有しています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントをもとに、関係する職員がケアチェック表を作成し、利用者の課題について話し合っています。新規利用者については当初1カ月の介護計画を作成してモニタリングし、1カ月後に修正を加えて、利用者本位の介護計画（期間3カ月）を作成しています。また計画に沿って日課計画表も作成しています。作成後の計画は家族に説明され、署名・捺印を受けています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月ごとに介護計画の見直しが行なわれており、利用者の状況に応じた見直しも実施されています。ケアチェック表に沿ってモニタリングを行ない、カンファレンスで職員の意見を集約しています。検討内容は「サービス担当者会議の要点」として記録・整理され、別に「ケアプラン変更連絡表」を作成し、変更内容を周知しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームで車を用意し通院の支援をしています。また、理美容の送迎も行ない、冬季は訪問理美容を受け入れています。希望があれば家族が泊まれるよう、寝具や和室を用意しています。デイサービスの休日に広間を借り、2ユニット合同の食事会をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者が2～4週間に1度、提携医療機関などに通院しており、送迎を行なっています。かかりつけ医の受診は、主にホームで対応していますが、家族で対応されている方もいます。受診結果は個人別の受診記録表を作成し記録して、必要に応じて家族に報告しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について本人や医師、家族、ホームで話し合い、ホームのできる範囲を口頭で説明していますが、今のところ「重度化した場合の対応に係る指針」のような書類を作成して取り交わすには至っておらず、検討中となっています。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階でホームの対応方針を本人や家族に説明するとともに、説明内容を記載した指針または同意書などの文書を取り交わすよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を人生の先輩として敬い、言葉掛けのひとつひとつやトイレ介助等に気を配っています。気づいた点があれば職員同士がお互いに注意しあっています。また、個人記録も適切に保管しており、面会簿は単票形式として他の家族が分からないようにしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその人らしい生活ができるよう、ホームの都合を優先することなく体調や希望、ペースに合わせたケアプランを作り、生活支援を行なっています。起床の時刻、食事のスピードなども本人のペースや体調に合わせて対応しています。		

札幌市手稲区 グループホーム つつじⅢ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に味付けを教わったり、盛り付けや配膳、後片付けなどに利用者の協力を得ています。利用者と職員と一緒に同じ食事を楽しんでいます。一方、ユニットによっては静かな食事となっています。また、献立はパターン化する傾向にあります。	○	食事の際は、食事に集中しながらも楽しい会話や明るい雰囲気がつくられるよう期待します。また、献立のパターン化を定期的に見直すなどの工夫を期待します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することができ、週に2回以上は利用者が入浴できています。希望を聞きながら無理強いせず入浴を促しており、拒む場合は次の日にするなど対応しています。入浴の長さを本人の希望に合わせて、必要に応じて2人介助を実施しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の助言や味付け、掃除、洗濯物片付け、カーテン閉めなど、役割を持って手伝っていただいています。ホーム独自の体操をしたり、かるたや風船バレー、計算プリント、クロスワードなどを楽しむ方もいます。みんなで季節の貼り絵を作り、食堂に飾っています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は敷地内の畑や花壇を見に行ったり、病院の帰りに買物に行っています。年間行事では春と秋に桜や山の景色を見にバスで出かけています。しかし、ホームとしての外出行事などは多いとはいえ、外食する機会もあまりありません。	○	ホームとして年間行事を増やしたり、家族の協力を得るなどして、行きたいところへの外出や外食の機会を増やす取り組みを期待します。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は1階のデイサービスと共同で、職員がいる間は鍵をかけていません。ユニットからエレベータホールへのドアは、利用者が不穏な場合や職員が手薄な場合など、必要時にのみ鍵をかけています。ドアにはチャイムをつけ、外出が把握できるようにしています。		

札幌市手稲区 グループホーム つつじⅢ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回を目処に日中や夜間を想定した避難訓練を実施しています。その他に毎週、消火器や非常口を確認する訓練をしています。隣接する病院には災害時の協力をお願いしています。また各職員は定期的に救急救命訓練を受講しています。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力病院の管理栄養士のチェックを受けた1週毎、4パターンの献立をもとに変化を加えて、カロリーや栄養バランスが考慮された食事を提供しています。また食事や水分の摂取量もきめ細かく記録し、調整しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く清潔に保たれ、多くの窓や中庭があり、開放的で快適な雰囲気となっています。また壁にはポスターや絵が額縁に入れて飾られています。椅子やベンチが使いやすく配置されています。また、温度や湿度、光や音も適切に調節され居心地よく過ごせるように保たれています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の今まで使っていたベッドや家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。居室の壁紙は個々に異なっており、個性が尊重されています。家族の写真や賞状などが自由に飾られています。		

※  は、重点項目。